
彼と私とユートピア

Y U I

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼と私とユートピア

【Nコード】

N4840I

【作者名】

YUI

【あらすじ】

受験生の夏野弥生はある日を境に同じ日を繰り返すという、奇妙な現象に飲み込まれてしまう。そこには彼氏・友人の知られざる裏の顔が隠されていた。

リターン

受験を控えた夏野弥生には付き合って三ヶ月になる浦川修一という彼氏がいた。修一も弥生と同じく受験生であり、二人は同じ高校に通うごく普通の高校生だった。この二人が付き合うきっかけは三年になりクラス替えでたまたま同じクラスになり、弥生の一目惚れから始まったことだった。

今日も弥生は教室の片隅で読書をしている。

「ねえ弥生、いつも読書してないでさあ、向こうで話さない？」
親友の裕子だった。裕子は弥生が修一と付き合っていることは知らなかった。実は、裕子は修一のことが好きだと言うことを弥生は知っていたため、言い出せなかったのだった。

「あー、浦川くんって本当にかっこいいよね。浦川くんってどこの大学行くのかな？弥生は知らない？」

「わっ、私はちょっと分からないなあ。でも、頭良さそうだから・・・」

「そうだよねえ、私浦川くんに志望校聞いちゃおうかな」

そんな会話をしている自分自身が弥生は苦痛でしかたなかった。いつ裕子に自分と修一との関係がバレるのか、裕子と話しているときはいつもそんな気持ちになる。別に好きで隠しているわけではないのだが、弥生は日々罪悪感に襲われているような感じだった。

その日は授業が早く終わった。と、いうのも三年生の受験の関係で職員会議が行われていたために短縮授業になったのだ。

「じゃーねー弥生」

後ろから裕子の声がした。裕子は予備校があるらしくその日は一緒には帰らなかった。

弥生も裕子と帰る日以外はいつも一人だったし、修一と帰ったことは片手で数えられる程度だった。休みの日はデートはするのだが、学校から一緒に帰るということが弥生は恥ずかしくて出来なかったこともあり、また裕子に見られたら何を言われるか……。

弥生は校舎を抜けると小田急線の改札を抜けてホームに一人で立っていた。周りには学生カップルが多い。

『あー、私も普通に修一と一緒に帰れたらなあ』

弥生はいつもそう思っていた。そうしている間に電車が来て、いつしか家についてしまう。今日もいつもと変わらない一日が終わっていた。

10月9日、今日も昨日と同じ天気だった。

弥生はいつもと同じ時間に起きて、いつもと同じ電車で学校に向かった。

「おっはよー弥生!」

「おっ、おはよう」

弥生はいつもと変わらないはずの裕子の態度に変に違和感を覚えた。

しかし、気のせいだと思い、今日も教師の片隅で本を開き、読書を始めた。

「ねえ弥生、いつも読書してないでさあ、向こうで話さない？」

「えっ、う、うん」

いや、やっぱり何かが違う。弥生の思いは次第に強くなっていった。

「あー、浦川くんって本当にかっこいいよね。浦川くんってどこの大学行くのかな？弥生は知らない？」

「ねえ裕子、それ昨日も言ってたよね。だから、私は浦川くんの志望校は分からないよ」

「えっ？私昨日弥生には話してないよ。その前に、昨日は日曜で私たちが会ってないじゃん」

「そんなはずないよ。だって今日は火曜日でしょ？昨日は短縮授業だったし、裕子は予備校があるって・・・」

「弥生こそ大丈夫？今日は10月8日の月曜日だよ。それになんで今日私が予備校だって知っての？」

弥生は何がなんだか分からなくなった。でも、ひとつだけ言えることは、自分が10月8日を二度経験しているということだった。

つづく

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4840i/>

彼と私とユートピア

2010年10月12日07時40分発行